

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400333		
法人名	有限会社ウイズケア		
事業所名	グループホームあすなる		
所在地	千葉県香取市玉造483-2		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村受理日	平成21年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成21年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた静かな環境のもと、こじんまりと家庭的で痺いところに手の届く介護をしている。又、入居者全員に役割を持っていただいて、毎日の暮らしに必要とされる喜びを感じていただこう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 郊外の住宅地の奥に個室9室を備えた平屋建てのホームです。内部は明るく清潔な感じで、周りは緑が多く、交通も激しくなく、安心して散歩に出かけることのできる環境にあります。
 2. ユニークな点は、毎食前に健口体操と称して、全員で口や頬の体操を時間をかけて丁寧にやっていることです。誤嚥につながる口腔機能の低下防止に効果があるものと思われます。
 3. 職員は管理者を信頼し、チームワーク良く、利用者の思いを尊重した支援を行っています。
 4. 家族アンケートの回答数は今回は5割強に止まりましたが、全員が大変満足との回答で自由記述でも苦情、要望等は出ていません。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目立つ所へ掲示し、判断に迷ったら理念に立ち返って判断している	共用スペース及び事務室に地域密着型サービスとしての2つの「理念」が掲示されており、職員、利用者ともに容易に読むことができる状態になっています。	「理念」のより深い理解のために、毎月1回の「職員ミーティング」の際、全員で唱和することを考慮中とのことで、実行が期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町内行事は管理者が必ず参加している。毎日近くの公園へ散歩し、買物やイベントなど、できるだけ外出の機会を設け、近所の保育園の運動会に参加、年2回のあすなるまつりには近隣にチラシを配り参加していただいている	町内会に加入して、管理者が自ら町内の行事に進んで参加している状態です。即ち環境美化を目指した「草刈」に参加、一方ホームでの「あすなる祭り」(年2回)に町内会の方々を招聘する等の交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居している方の家族へ話す、町内行事に参加した時折にふれて話す、散歩時出会った方に話す、あすなるまつりに集まった方に対応を見ていただくなど		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で前回開催時より当日までに行なったサービスについて報告し、話し合い評価をしていただき改善すべきところは改善している	運営推進会議は、年2-3回、市担当者、家族代表、民生委員、元区長等の参加を得て実施されています。ここでは、グループホーム運営上の課題が具体的に話し合われています。	運営推進会議は2カ月に1回程度が望ましいとされていますが、3か月に1回程度は開催し、家族や地域の方との交流の場として活用することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただいている。またグループホーム連絡会、ケアマネ連絡会に参加し市や県の情報を得たりこちらの意向を伝えたりしている	市担当者とは各種手続きの際に会う他、3か月に1回開催の「グループホーム連絡会」や、「ケアマネ連絡会」に市の担当者も参加しているので、その際に意見交換等の機会を持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何かある毎に鍵をかけない介護の必要を話し、身体拘束、虐待防止研修に参加してもらっている	身体的拘束・虐待防止の研修には、職員が積極的に参加しており、月1回の「ミーティング」でその研修結果を報告し、法令遵守を確認しあっています。玄関は日中は施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに、見過ごした場合も罪になることを話している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部の研修や書籍パンフレット等で学んでいる。職員はミーティング等で管理者から聞き必要かどうか職員同士、または管理者と話合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明書、契約書により管理者から説明したあと質問を受け疑問があればその都度回答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、要望苦情があったら遠慮なく申し出て下さるよう話している(申出先も含めて)。年2回家族会を開催、普段の面会時声かけして意思の疎通を図っている。イベントのあとは感想を聞いている	年2回の「家族会」において、要望・苦情等を確認しあっています。さらに利用者と管理者との「日帰り旅行」の実施などで、利用者の要望等をより具体的に汲み取っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全員参加でミーティングを行い意見を出してもらっている。業務改善ノートを設置し書いてもらっている。その他毎日の業務の中で気付いたことを言ってもらい検討している	職員との面談でも明らかですが、毎月1回の「ミーティング」で運営上の疑問点等を進んで話し合える状態であり、「業務改善ノート」の申し送り事項でも日々の改善事項が具体的に明記されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎日出勤し勤務振りを把握、昇給、賞与に反映しているとともに近隣の給与水準と比較検討するよう情報収集している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日出勤して朝、晩申し送りを聞きどのような対応が望ましいか話し、出来ない時は手本を見せている。外部研修にもシフトの許す限り出してもらうよう、出勤扱い研修費交通費会社負担としている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の交流会にはシフト外の職員で参加しているが市外には管理者のみ出ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずホーム内を案内して回りトイレ、自席、風呂等を説明する。この時出会った入居者、職員なども紹介する。次に食事又はお茶のあと全員で自己紹介をし合う。住所などを伺い近い人や関係ある人を紹介して親近感をもってもらおう		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時アセスメント時話を伺いながら関係することに話題を広げ不安、要望等をそれとなく聞いたりして関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聞くとともにスタッフ見守りの中、本人に行動していただいて出来ることできないことを見極め、本人に確認しながら支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の掃除、テーブル拭き、お茶入れ、調理下ごしらえ、健口体操、食事の号令かけ、下膳、歌の会の選曲と号令かけ、集合時の声かけ、会話などで利用者同士声をかけてもらったり、職員が本人から古人の知恵を教えてもらったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのイベントに参加していただいたり(外出一緒に)、いろいろ耳よりの情報や得意のことを教えていただいたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、家族との外出を支援し、受診、買物、美容院など行きつけの所へ支援している。面会時は居室やリビングでくつろげるようお茶とお菓子を出している	ホーム側ではいろいろと努めているようですが、認知度が進むにつれ、訪れる知人を認知できなくなるため自然と足が遠のくのも已むをえません。頼りは家族で、できるだけ訪れ一緒に外出などするよう働きかけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶など集合時、誘い合って出たいたり、会話時少しでも共有できそうな話題を振って親近感を持っていただくようにリードしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい関係者に馴染むまで電話などで様子を伺って必要があれば支援している。また相談があればいつでも対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動、家族の話の中から本人の思いや暮らし方の希望を把握してケアプランに反映している	食事は一応全員そろって摂るようにしていますが、朝起きるのが遅くなった人には柔軟に対応し、入浴も同様で無理強いすることなく、間が空いた人にはうまく誘導しています。全体に自然にゆったりと過ごしている様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント(アセスメント表により本人、家族より聴取)入居後本人や職員、面会時家族より伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族から話を聞くとともにスタッフから聞き取り記録を読むなどしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員それぞれから聞き取りまたケアマネ自ら本人を観察して介護計画を作成し、計画に沿ったサービスが出来ているか、目標が達成できているか毎月把握、記録している	計画書は細かく多岐にわたる項目について期限を定めて作成されています。期限内にそのうち1項目でも状態等の変化があった時は、都度作成替えはせず、計画書に記録しています。変更事項が多くなれば計画書の作り直しが必要となります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人について24時間記録表にケアの実践、結果、気づきを記入し申し送りで伝言している。また月1回のミーティングでも気付いたことを話合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが発生した時点で柔軟にサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年数回地域のボランティアさんの慰問を受けたり近くの保育所の行事に参加したり近隣の畑で柿狩りをさせていただいたり、ぶどう狩り、夏と秋の祭り見物、さくらチューリップなどの花見、などしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則家族で行ってもらっている。家族が都合つかない時はホームで支援している。	理解のある主治医の場合はこまめに往診してもらえることもあります。また、かかりつけ医の不在の場合にどうすればよいかの指示があったり、代理の医師の紹介を受けたりしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた事は管理者(看護師)へ伝え受診、処方内服、ホーム内での処置を受けたりに繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時入院先まで同行し発病の経過、これまでの暮らしぶりなどを伝えている。入院後も時々見舞って様子を伺っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時・入院時など折に触れてお話ししている	方針について特に家族と文書は交わしていません。しかし、管理者が準看護師でもあり、過去に一人、家族の希望に沿って、主治医との連携を密にして看取りを行っています。今後も一人であれば可能ですが、同時に二人以上は無理と話しているとのことである	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ定期的には行っていないが何かある毎に管理者(看護師)から説明している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の火災訓練を全員出勤で行っている。また職員室に緊急連絡先、火災発生時の対応手順を掲示、その他ミーティングで話し合ったり運営推進委員さん近隣のお店などに応援依頼している	年1回「消防訓練」を実施しています。この訓練には、消防署スタッフのほか、民生委員、運営推進委員等の参加を得ています。また緊急連絡先については、一覧表を事務室に掲示しています。	避難訓練は月1回行いたいとしています。さらに、万一の時に外部からの協力を得られるよう時には近隣の方々の参加への道を探ることも必要かと思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に本人の誇り、プライバシーを尊重する言葉かけを心がけて対応している	個人ファイルの管理については常にキャビネットに格納するように改め、改善が図られています。	現状に問題があるわけではありませんが、個人情報の保護方針を定めること、年に一度はプライバシーに関する職員研修を行うことが望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立決め時、何が食べたいか、お茶の時間何が飲みたいか伺って希望に沿うようにしている。また着る物・することなど、まず本人に聞いてから支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、水分摂取など基本的な命に関わる事柄はできるだけきちんとしていただくよう話しているが、その他のことは本人の希望に沿って過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に伺いながらその日に着る衣服を揃える。髪の毛のカット、毛染めなど行きつけの美容院へ介助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度体調に気遣いながら声かけし、献立決め、野菜刻み、盛り付け、お茶入れ、テーブル拭き、入居者への声かけ、食前の健口体操のリーダー、食事開始の発声、下膳などできることを職員と一緒にやっていたい	昼食は週に2回配食を受け、木曜はパンと決めています。その他はすべて、利用者の好みも聞きながら献立をたてています。毎食前、食欲増進をも兼ねて口の体操をしています。限られてはいますが、テーブル拭き等利用者も準備や後片付けに参加していま	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録、水分摂取量はバラつきのある人をその都度記録して1日量でバランスがとれるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ずお茶など水分を摂取して口の中を掃除するよう促し、夜寝る前は歯みがきをしていただいている。できない方は介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用は出来るだけ減らすよう排泄チェック表やソワソワした様子を見てトイレ誘導し、濡れたままにしない。居室にポータブルトイレを所持していても排泄を自覚でき歩ける方は、日中はトイレへ行ってもらうよう話し合い、そのバケツを預かっている	全く手のかからないのは3人で、その他は何かの介助が必要です。おむつ使用は一人です。起床時、食事の前後、就寝前など誘導・介助し、失敗をしないよう、オムツの使用量が減少するよう心配りがなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に根菜類を多く出し、便秘がちの方には毎朝冷たい飲み物を飲んでいただき、毎日体操、散歩などに参加を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大筋では毎日午後入浴と決めているが外出など都合のある時、理解できずに拒否される時はその方の都合に合わせて入浴していただいている	入浴は午後2時～4時の間に1日4～5人づつ楽しんでいます。大体1日おきですが、ほとんど介助を要しないので毎日入っている人もいます。あまり入りたがらない人でも週1回は入るように誘導しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ規則正しい生活をして頂くように声かけしているが本人の都合を優先している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者はほぼ理解しており、毎日出勤して症状の変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力と意欲に応じて食事の掛け声、掃除、洗濯たたみ、盛り付け、お茶入れ、下膳、テーブル拭き、散歩、歌を歌うなどしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日近所の公園へ散歩している。月1～2回車で近場へ外出、家族にも協力していただいている。希望により温泉などへも出かけている。	4～5人は毎日4～50分近くの公園まで散歩に出かけています。希望者が有れば午後も違うコースに出かけますが、中にはコースが変わると混乱する者もいるので、あまり変化を持たせていません。職員は車でもっと出かけられれば良いかと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をすべて自己管理している方、小遣い程度持っている方それぞれだが、自分で使っても無くなった・盗られたと言う方もいるので、その場合はすべて家族管理とし、買物したい時はホームで立替え家族へ請求している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、手紙の投函などいつも介助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂、トイレなど常に季節の花や鉢植えを飾り、強い日差しにはレースカーテンを引き照明は電球色を多用している	共用スペースは、季節の花々(大柄な菊等)や鉢植えが飾られており、暖かな、ゆったりした空間構成となっています。照明の白熱電燈も明るさが適度に感じられ、イベントの写真や利用者の水彩画・貼り絵等が程よく飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士サンルームで庭を眺められるよう椅子を置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、引き出し、椅子、人形、写真、花瓶(花)、絵などおいている	各居室は、家具・テレビ等が置かれており、壁には、写真集・手作りの作品・絵画などが掲げられていて、静かな過ごしやすい空間となっています。全体的に清潔な感じの簡素なスペースとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室は遠くからも見えるよう太字で表示している。入居間もない方は居室入口をくす玉やりボンなどで飾り、わかりやすくしている		